

国連世界食糧計画（WFP）を通じたジンバブエ無償資金協力事業の引渡式及び署名式の実施

10月30日、岩藤大使は、マウントダーウィン郡マジェレレ地区において行われた、WFPを通じたジンバブエ無償資金協力事業の引渡式及び署名式に出席しました。

日本政府は、今年3月から、マウントダーウィン郡においてWFPを通じた緊急食料支援や農園の設置等の支援を行いました。また、ジンバブエにおける干ばつの影響等を受けた深刻な食料不足の状況を勘案し、新たにマウントダーウィン郡やクェクェ郡を対象として、3億円の予算で、WFPを通じた新たな食料支援を行うことを決定しました。今回、日本に支援により農園が設置されたマジェレレ地区において、施設等の引渡式及び、新たな支援のための書簡の交換を行う署名式が、日本国大使館、WFP、関係するNGO、政府関係者、地元関係者による参加のもとで行われました。

岩藤大使は、式典において、自分は「HeforShe」運動などのジェンダー問題に関わっているが、本事業は女性と子供に対して栄養支援を行っており、ジェンダー問題における我が国による重要な支援の一つと考えていることや、日本政府を代表して、WFP、開発パートナー、地方自治体、地域住民などの関係者による積極的なプロジェクトへの参加に対する謝意を述べました。



日本に支援により設置された農園



果樹の苗木の植樹
(PHOTO: WFP Zimbabwe/Tatenda Macheka)



設置された施設等の引渡署名
(PHOTO: WFP Zimbabwe/Tatenda Macheka)



新たな支援の書簡交換
(PHOTO: WFP Zimbabwe/Tatenda Macheka)



マジェレレ地区における支援を示す看板



農業用水を貯留する水槽



日本の支援により配布される食糧



食糧支援の配布状況



支援用食料の全景
(PHOTO: WFP Zimbabwe/Tatenda Macheke)